

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31 - 35	中学校	社会	社会 (公民的分野)	3年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	公民 904	中学社会 公民的分野		

## 1. 編修の基本方針

「新しい時代を担う主権者を育てる」を基本理念とし、  
18歳選挙権をみすえて、生徒が「社会的な見方・考え方」を働かせた学習を通して  
「主体的・対話的で深い学び」を実現し、新しい時代の国家・社会の形成者として必要な  
「公民としての資質・能力の基礎」を育成することを願い、本教科書を編修しました。

本教科書は、教育基本法第2条の教育の目標を達成し、この基本理念を実現するために、以下の三つを編修の基本方針とし、編修にあたりました。

基本方針

1

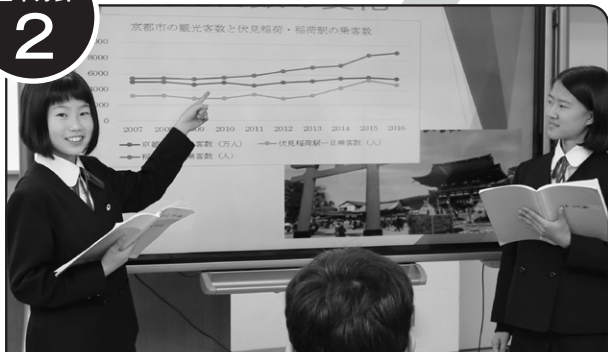


質の高い学びや授業を保證する

確実な知識・技能の定着

基本方針

2



生徒自らが学びに動き出す

主体的・対話的で深い学びを通した  
思考力・判断力・表現力の育成

基本方針

3



学びを日々の生活や  
社会に活かす

学びに向かう力・人間性を養う

▶教科書全体での学習を通して「何ができるようになるか」という資質・能力を育成できる構成にして、生徒が学びの成果や自己の成長を振り返ることができるように編修しています。

公民で最初に学習する第1編で、現代社会の特色と課題をとらえ、最後に学習する第5編では、第2編から第4編の学習で身につけた資質・能力を生かしながら現代社会の抱える課題の解決を考察、構想する構成としています。

また、教科書全体の指針となる問いを示すことで、生徒が公民的分野での学習を通じて資質・能力を育み、自らの成長を実感できる教科書を目指しました。

教科書第1編の問い



現代社会はどんな社会だろうか？



教科書第5編の問い



これからの社会をどんな社会にしたい？

▶基礎・基本を大切に、「何を学び」「どのように学ぶのか」のポイントをおさえた紙面構成にしており、生徒が知識・技能を確実に身につけることができるように編修しています。

本文は1授業時間を見開き2ページとし、この見開きで何を学ぶのかを「学習課題」で明確に示しました。右ページの側注欄には「確認」コーナーを設け、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる学習活動や、自分の考えを説明させる問いを示して、習得した知識を用いて文章化、言語化できるようにしました。

本文ページの使い方

導入資料

見開き内容の導入になる資料と、それに関係する問いかけを設けています。



この見開きで何を学んでいくのかを示しています。この課題を考えながら、学習を進めましょう。



学習課題に対応し、見開きの学習の理解を確かにする問いを示しています。学習の最後に取り組みましょう。

見方・考え方

学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示しています。

深めよう

学習課題の理解を深めるため、「見方・考え方」を働かせたりする問いを示しています。

歴史

連携コーナー

主に地理や歴史の学習とのつながりを示しています。

インデックス

学習内容を全体のなかに位置づけて学習を進めることができます。

本文

十分な文字量を確保し、平易な表現を用いて、公民で多出する概念や因果関係を丁寧に説明しています。また、一つの文章の長さを適切なものにし、ふりがなも従来よりも多くするように基準を見直すなど、生徒の読み取りを支援するようにしました。

図版資料

関連する図版番号を本文に付して、本文と図版資料との関連をいっそう明確にし、また図版の位置を示す矢印を付けることで、生徒が学習に取り組みやすいよう配慮した紙面構成としています。

資料活用

資料を用いた活動を示すことで、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができるコーナーを適宜設けています。

▶「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、編の学習における「習得・活用・探究」の学びの過程のなかで、「見方・考え方」を自然に繰り返し働かせられるように編修しています。

公民の「見方・考え方」は「民主主義」「希少性」といった抽象的な概念であるため、各編冒頭の導入ページ「学習のはじめに」や最初の本文ページでわかりやすく解説しています。そして、本文ページでは、学習課題の解決に向けての手がかりとなる「見方・考え方」コーナーをすべてのページに設け、「アクティビティ」や「深めよう」などを通して繰り返し「見方・考え方」を働かせることができるように編修しています。編末の「チャレンジ公民」では、社会的な課題を探究するときにも、その考察の過程で「見方・考え方」を働かせるようにしています。

導入

■ 学習の始めに



2～4編の導入ページとして、その編で習得する「見方・考え方」をおおまかにつかむことのできる漫画を掲載することで、抽象的な概念である「見方・考え方」を、具体的な場面を通して理解できるように工夫しています。

(P.6-7, 34-35, 122-123, 176-177)

◀P.122 第3編経済単元「文化祭を成功させよう!」

編(章)の導入や本文の学習における習得・活用・探究の過程で、「見方・考え方」を働かせることができる構成です。

本文

■ 本文ページ

● 「見方・考え方」を学びの過程で働かせるための工夫

○ 編の最初の本文ページで、「見方・考え方」を解説しています。

**見方・考え方** **希少性**

お金の貸し借りの意義を、希少性に着目して理解しましょう。

○見方・考え方コーナー  
本文ページで働かせたい「見方・考え方」の例を示しています。

◀P.154

**深めよう**

金融のしくみはどのように社会の役に立っているか、「希少性」という語句を使って説明してみましょう。

○深めよう  
「見方・考え方」を働かせたりする問いです。

◀P.155

● アクティビティ

**アクティビティ** ▶ 公正な投票のしくみを考えよう

政党名	A党	B党	C党
得票数	600票	450票	210票
得票率	30.0%	22.5%	10.5%
議席数	2人	1人	—

① 得票率の低い政党は議席が与えられず、議席が与えられた政党は議席に比例して議席が与えられる。

② 得票率の低い政党は議席が与えられず、議席が与えられた政党は議席に比例して議席が与えられる。

③ 日本の選挙制度がなぜこのようなしくみになっているのかを説明しよう。

▲ P.81 公正な投票のしくみを考えよう

「見方・考え方」を働かせながら、学習内容の理解を深める主体的・対話的な問いや活動を示す、「アクティビティ」コーナーを設けています。

(P.9, 25, 37, 55, 81, 103, 135, 143, 195 など)

まとめ

■ チャレンジ公民



▲ P.208-209 地球温暖化に対する政策について考えよう

2～4編(章)末に設けた「チャレンジ公民」では、各編の学習内容や「見方・考え方」を活用し、現代の社会の課題について考察、構想をする活動を行います。また、生徒の発達段階を考慮し、争点を明確にして、ヒントとなる資料や思考を整理する技能を提供するなどの工夫をすることで、全ての生徒が議論に参加できるように編修しています。

(P.74-75, 118-119, 172-173, 208-209)

社会の課題を考える探究のページでも「見方・考え方」を働かせるヒントを示します。

先生からの視点の提供

少数意見の尊重とは、少数意見に従うべきだということではありません。多数派が異なる意見にも目を向け、もう一度よりよい提案ができないか考える過程が大切なのです。

今回は、①のチャートで、与党の政策の位置を少し野党に近づけるには、どのような方法があるかを考えてみましょう。ただし、税収には希少性があるので、際限なく歳出を増やすことができない点にも注意しましょう。

▲ P.173

▶「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、日本の社会や世界の状況を幅広く視野に入れられる教材を設定し、新しい時代を築く社会の参画者を育てるように編修しています。

身近な地域の抱える課題を考える活動や、生徒が将来について想像を膨らませて、社会参画をうながすための手がかりとなるページとして「明日に向かって」を全編を通して設けています。(P.104-105, 116-117, 152-153, 170-171, 192-193 など)



▶P.50-51 まちのバリアフリーを探そう



▶P.96-97 災害に強い暮らしをさずく

○本文ページでは、学習内容の理解を深めるために、具体的な事例を紹介するなどしたコラム「公民+α」を用意しています。(P.11, 23, 63, 127, 157, 189 など)

○現実の社会の課題を新聞などから取り上げ、「見方・考え方」を働かせて考えることができる問いを設けています。(P.33, 76, 174 など)

**公民 +α 若い世代の政治参加**

日本の投票率は、10歳代と20歳代が特に低くなっています。このことと日本が少子高齢社会であることを合わせて考えると、若い層の投票率は高齢者の層に比べて、少ないことがわかります。

選挙に立候補する立場からすれば、多くの票を得たいと考えます。そのため、若者が多く投票すれば、「選挙に来る若者のことをできるだけ考えて政策を決めよう」と思うのではないのでしょうか。未来を生きる時間が長い若い世代が、政治に関心をもち、選挙に行くことは、将来の生活にとって、とても大切です。

全国各地では、大学生や高校生の政治や選挙への関心を高めるために、選挙に関する議論や、出前投票での模擬投票などを通じて、投票をよびかける活動が行われています。

年代	投票率 (%)
10歳代	38.85
20歳代	40.40
30歳代	45.52
40歳代	53.68
50歳代	67.24
60歳代	72.04
全体	58.85

**深めよう**

若者が投票に行かないと、政治にどのような影響をあたえるか、公正に審目に説明しましょう。

▶P.85 若い世代の政治参加

2019年2月1日に、アメリカは中距離核戦力全廃条約を破棄し、翌2日にロシアも条約の履行を停止しました。この条約は、冷戦末期にアメリカとソ連の間で結ばれた、中距離ミサイルを廃棄するように定めた条約です。

アメリカ側は、ロシアがこの条約の抜け道を採ってミサイルの開発を続けていることや、アメリカとロシア以外の国、条約を結んでいない国々がミサイルを開発していることなどを破棄の理由としています。

一方でロシア側は、条約は遵守していると主張しており意見が対立しています。

こうした対立が続くと、冷戦期のような軍拡競争に発展してしまうおそれがあります。

**アメリカの条約破棄を伝える新聞記事 (2019年2月3日朝日新聞)**

**日米共同声明するアメリカとソ連の代表 (1987年、アメリカ)**

- 核兵器やミサイルなどの兵器を削減していくことを、なんといおうでしょうか。
- アメリカが中距離核戦力全廃条約を破棄した理由について、公正に議論から話し合ってみましょう。
- アメリカとロシアの間での条約が破棄されてしまった後、世界平和のために、国際社会ではどのような取り組みが必要でしょうか。

▶P.210 ニュースを見方・考え方から見てみよう

▶地理と歴史との連携、小学校社会科、高校「公共」との接続を見通して編修しています。

公民的分野の学習のなかで、地理的分野・歴史的分野や小学校社会科で学習した知識を生かすことができるように、脚注に「連携コーナー」を設けるなどの工夫をしています。また、巻末では高等学校「公共」との接続を示し、中学校社会科での学習の成果をどのように活かしていくのかの見通しをもつことができるようにしています。

**公民 江戸幕府が苦しんだインフレーション**

戦乱の世が終わって江戸時代になると、社会が安定したことから経済が大きく発展しました。17世紀前半には外国との貿易が盛んになり、17世紀から18世紀にかけて五通商や豪商活動、幕府の整備で流通のしくみが整えられ、分業と交換によって人々の生活は豊かになりました。経済活動が活発で物価も上昇していたこの時代は好景気であったと言えるでしょう。

しかし、江戸幕府はこの時代に財政難に苦しむことになりました。江戸幕府は集めた年貢米を天禄米で売ることがよくあり、物価が上昇しているときには米の価格がそのほかの商品と同じくらい上がらない、財政が苦しくなってしまいます。

当時、新田開発や新しい職員の登用によって米の生産量(供給量)が大きく増えていました。当時の人口も増

**江戸幕府の米相場**

このころは物価の暴落も大きくなっていましたが、供給量の増加の影響のほうが大きく、米の価格はあまり上昇しませんでした。

こうして慢性的な財政難におちいった江戸幕府は、徳川幕府の時代に貨幣を改鋳して収入を得たり、徳川吉宗の時代に軍隊の改革で米の価格を安定させようとしていたり、さまざまな改革を行っていくことになりました。

▶P.145 江戸幕府が苦しんだインフレーション

**地理・歴史とのつながり**

地理と歴史のつながり

地理

歴史

▶P.4 地理・歴史とのつながり

**高校の公民科「公共」とのつながり**

高校の公民科「公共」とのつながり

公民

公共

▶P.5 高校「公共」とのつながり

歴史 立憲主義の憲法と十七条の憲法で、ちがうところはどこでしょうか。


▶P.38 連携コーナー

## 2. 対照表

教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、教科書全体を通して、以下のような配慮をしています。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「これからの社会をどんな社会にしたい？」では、国際社会共通の目標である持続可能な開発目標(SDGs)について、教科書を通して考えられるよう配慮しました。(第1号～第5号)</li> </ul>	P. <b>2</b> ～ <b>3</b>
第1編 私たちと現代社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現代社会の特色や現代社会に受けつがれる文化について理解することで、我が国や郷土を愛する心情を育むとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。(第3号, 第5号)</li> <li>●社会的存在である人間を基礎に置き、きまりや見方・考え方の学習を通して、個人の価値を尊重し、自主及び自立の精神を養い、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるように配慮しました。(第1号, 第5号)</li> </ul>	P.6～33
第2編 私たちの生活と政治 第1章 個人の尊重と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●立憲主義に基づく日本国憲法の学習では、個人の尊重に基づいた民主主義と法の支配の基礎を学び、人権の意義と問題を具体的に捉えさせることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、生命を尊ぶ態度が養えるように配慮しました。(第2号, 第3号, 第4号)</li> <li>●具体例から情報モラルを身に付けられるよう配慮しました。(第1号)</li> </ul>	P.34～77
第2章 国民主権と日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国民主権に基づく民主政治の意義と国会や内閣の役割を理解するとともに、地方公共団体の取り組みを自らの問題として考えられる学習を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。(第1号, 第3号, 第5号)</li> <li>●具体例から情報リテラシーを身に付けられるよう配慮しました。(第1号)</li> </ul>	P.78～121
第3編 私たちの生活と経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>●将来、生徒が様々な場面で経済と関わることを想定し、消費、生産、金融、財政の単元の基礎的な知識を通して、社会生活における自己実現や社会貢献を考えられるようにしました。(第1号, 第3号)</li> <li>●労働の問題を自らの問題として考え、勤労を重んずる態度を養うことができる具体的な事例や学習を用意しました。(第2号)</li> </ul>	P.122～175
第4編 私たちと国際社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国旗や国歌を相互に尊重し、国連等の国際機関や政治、経済、文化、環境の問題を幅広く取り上げることで、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。また、主権や領土に関する学習を充実させました。(第1号～第5号)</li> </ul>	P.176～211
第5編 私たちの課題 —持続可能な社会をめざして—	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公民の学習の最後に行う社会的な課題の解決の学習では、レポートの作成を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。(第1号, 第3号)</li> </ul>	P.212～221

## 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全ての生徒が等しく学べるよう、ふりがなをすべて読みやすいゴシック体にしたほか、図版の配色や体裁にいたるまで、ユニバーサルデザインに配慮した編修を行いました。</li> </ul>
防災・安全への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●近年、多発する自然災害に対する防災・減災への備えと、自助・共助・公助の実践を具体化した内容を明記しました</li> </ul>
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●デジタルマーク  を付けた箇所では、ICTを活用して学習を深めることができるよう、弊社 Web ページにコンテンツを用意しました。</li> </ul>
道徳との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道徳の「主として集団や社会との関わりに関すること」のなかでも「社会参画、公共の精神」「国際理解、国際貢献」等については各所で取り扱いました。</li> </ul>



# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号 <b>31 - 35</b>	学校 <b>中学校</b>	教科 <b>社会</b>	種目 <b>社会 (公民的分野)</b>	学年 <b>3年</b>
※発行者の番号・略称 <b>116 日文</b>	※教科書の記号・番号 <b>公民 904</b>	※教科書名 <b>中学社会 公民的分野</b>		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### 新しい時代を担う主権者を育てる教科書

人権・環境・平和といった普遍的な価値を基礎として、現代社会の諸課題に対して公正や個人の尊重といった見方・考え方を using 判断ができるよう、「**公民としての資質・能力の基礎**」を育成することをめざして編修しました。また、生徒が公民の学習を通して自らの成長を実感し、学習を社会に生かし、将来に希望をもって生きていくことができる内容をめざしました。

### 特色 1 社会参画に関わる教材の充実

#### ①生徒が将来に生かすことのできる教材

社会参画をうながすページとして特設ページ「**明日に向かって**」を設けています。持続可能な開発目標(SDGs)については、巻頭見返しにて17の目標を示すとともに、関連する内容を第1編から第5編までの学習の随所に登場させており、教科書全体を通してSDGsについて考えられるように工夫しています。



↑P.2-3 これからの社会をどんな社会にしたい?



↑P.14 持続可能な社会と私たち

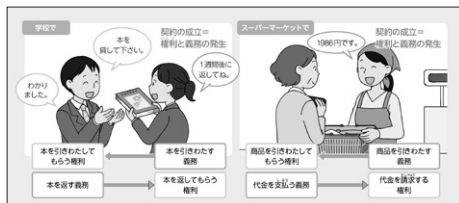


↑P.207 プラスチックによる海洋汚染に立ち向かう

#### ②生徒がより良い社会生活を営むための教材

法教育 (P.25, 37, 98, 130 など)、主権者教育 (P.80, 85, 116 など)、消費者教育 (P.129 など)、キャリア教育 (P.152 など)、金融リテラシー教育 (P.155 など) など、これからの社会を創り出していく生徒が自らの人生を切り開くために必要な教材についても、一層の充実を図っています。

### 法教育



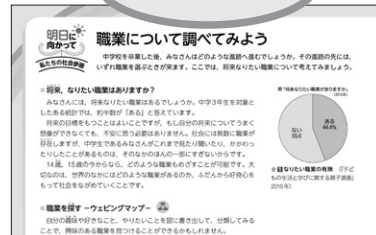
↑P.130 あなたも契約をしている

### 主権者教育



↑P.80 選挙の投票はどうするの?

### キャリア教育



↑P.152 職業について調べてみよう

## 特色2 「主体的・対話的で深い学び」の実現のための工夫

### ①教科書を通して「見方・考え方」を働かせるための教材

学習指導要領で示された「見方・考え方」を働かせる学習活動を教科書内に多数設けています。また、第1編で学習する、現代社会を捉え、考察、構想する際に働かせる概念的な枠組みの基礎となる「対立と合意」、「効率と公正」については、第2編以降の学習においても働かせられるような工夫を、これまでより一層拡充させました。

「アクティビティ」は、本文ページのグラフやイラストなどの資料などをもとに「見方・考え方」を働かせる問いを考えることで、**主体的・対話的で深い学び**を実現し、当該見開きの学習内容の理解を深めることを意図して掲載しています。生徒の発達段階に応じて活動内容を調整できるように、資料の読み取りから始めるようにするなど、設問を段階的にし、授業で使いやすい工夫をしています。

「アクティビティ」以外にも「**深めよう**」を設けて、「見方・考え方」を働かせたりする問いを示しています。

**アクティビティ** ▶多数決について考えよう ―給食のデザートに自分の好物を1―

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん
第1希望	プリン	プリン	プリン	アイス	アイス	ケーキ	大福
第2希望	アイス	ケーキ	ケーキ	大福	ケーキ	アイス	ケーキ
第3希望	大福	アイス	大福	ケーキ	大福	大福	アイス
第4希望	ケーキ	大福	アイス	プリン	プリン	プリン	プリン

**自己採点結果**  
 次の投票では、次に上位で希望したデザートに投票します。これを、一つだけ残るまで繰り返します。  
**Z:** 希望の強さに応じてポイントをつけ、ポイントの合計が最も多いデザートに決めます。第1希望は4ポイント、以下、第2希望は3、第3希望は2、第4希望は1で、デザートごとに合計点数を出します。  
**②** それぞれの決め方の長所と短所について、効率と公正に目をしつら合います。

#### ▶P.79 多数決について考えよう

「**チャレンジ公民**」は、編(章)末に見開き2ページを設け、与えられた資料をもとに社会の課題についての**考察、構想**を行い、生徒が「見方・考え方」などを用いて、判断基準をふまえて表現することができる教材を意図して編修しています。

学習内容に取り組みやすくするために、**争点を焦点化**したり、「**ツールミンモデル**」や「**効率と公正チャート**」などの生徒の思考の手助けとなる**学習手段も合わせて紹介**したりするなどの工夫を行っています。

#### ▶P.118-119 自分たちのまちの首長を選ぼう

**自分たちのまちの首長を選ぼう**

選挙の仕組みや、選挙の意義、選挙のルール、選挙の準備、選挙の当日、選挙の結果、選挙の反省などについて学びます。

選挙の仕組みや、選挙の意義、選挙のルール、選挙の準備、選挙の当日、選挙の結果、選挙の反省などについて学びます。

第5編では、小学校社会科、地理的分野・歴史的分野を含めた中学校社会科の総まとめとして、**持続可能な社会の実現のための課題を生徒自らが設定し、その解決に向けて考察、構想する学習活動**を設けています。

第4編までの学習で、「アクティビティ」や「チャレンジ公民」を通して身に付けてきた資質・能力を総動員して、自ら考え、提案を行う能力を育むことを意図しています。


#### ▶P.218-219 生徒のレポート例

**生徒のレポート例**

持続可能な社会の実現のための課題を生徒自らが設定し、その解決に向けて考察、構想する学習活動の成果をまとめたレポートの例です。

### ②知識を相互に関連づけて、理解を深めるための工夫

関連する項目どうしを結びつけることで、社会のなかで生きて働く知識となるような示唆を、**適宜脚注**に設けています。

 経済活動の自由(→P.47)、公共の福祉(→P.67)と行政による規制とのかかわりを考えてみましょう。

#### ▶P.95 「行政権の拡大と国民の生活」脚注

### ③社会的事象等について調べ、まとめる技能の育成

情報を収集し、読み取り、まとめる際に必要となる技能や、**情報リテラシー・情報モラル**を育む教材として「**情報スキルアップ**」を設けています(P.16-17, 60-61, 86-87)。

また、収集した情報についてまとめたり、考察したりする際に活用できる多種多様な「**シンキングツール**」の使い方を随所で示しており、生徒の主体的・対話的で深い学びを支援しています(P.33, 77, 121, 152など)。

さらに、教科書内の資料には、読み取りを補助する**資料活用**コーナーを適宜設けています。(P.37, 70, 80, 130, 160, 178, 205など)

**新聞の読み方と伝え方を学ぼう**

新聞の読み方と伝え方を学ぼう。新聞の読み方と伝え方を学ぼう。新聞の読み方と伝え方を学ぼう。

#### ▶P.86 新聞の読み方と伝え方を学ぼう



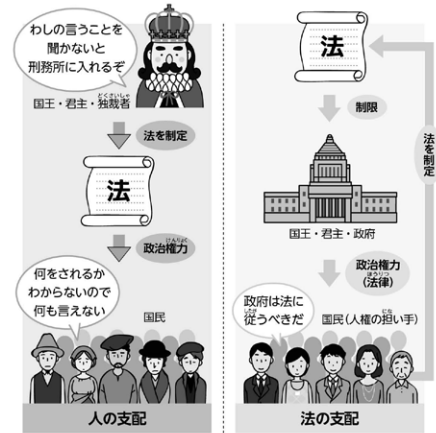
### 特色3 生徒に身近で新しい事例や図版から学べる工夫

#### ①楽しい学びと知識の定着を図る多彩な図版

教科書全体を通して、抽象的な社会のしくみを具体的にイメージできる図版を豊富に掲載しています。大判紙面を生かしたビジュアルで、多彩な図版による楽しい学びで知識が定着できるようにしました。



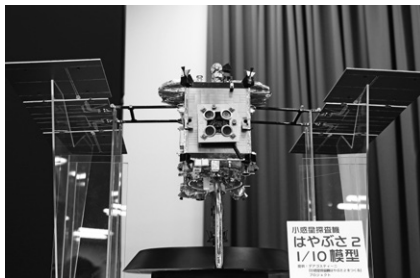
▲P.108-109 私たちのくらしと地方自治



▲P.39 人の支配と法の支配

#### ②新しい事例や、生徒に身近で話題性のある事例の積極的な掲載

スポーツでのデータ分析 (P.17), はやぶさ2 (P.18), インターネットの接続遮断 (P.47), ヘルプマーク (P.49), ビッグデータと防犯カメラ (P.59), ゆるキャラ (P.109), 自動運転 (P.137), マイクロプラスチック (P.207) など



▲P.18 はやぶさ2



▲P.47 インターネットの接続遮断



▲P.137 自動運転


#### ③今日的課題を考えることができる豊かな教材

主な観点	主な内容
人権	女性 (P.49, 150), バリアフリー社会 (P.50-51), ハンセン病 (P.57), 児童の権利条約 (P.65), えん罪と代用監獄 (P.101), 労働基本権 (P.147), 人間の安全保障 (P.199), 貧困 (P.201) など
環境, エネルギー・資源	持続可能な社会 (P.14), 京都の景観とまちづくり (P.67), 環境保全の担い手としての政府 (P.168-169), 資源・エネルギー問題 (P.202-203), 地球環境問題 (P.204-205) など
平和・命の尊さ	日本国憲法の平和主義 (P.70), 沖縄と基地問題 (P.73), 変わる国連のはたらき (P.186), 現代の戦争の問題 (P.194), 軍縮 (P.196), 日本の平和主義と国際貢献 (P.198-199) など
防災・減災	情報化を生かした防災への取り組み (P.11), 災害に強いくらしをきづく (P.96-97), 災害と地方自治 (P.109), 災害にそなえるには (P.214) など
伝統と文化	2025 大阪・関西万博 (P.14), 日本の伝統文化の特徴と多様性 (P.20-21), 世界のなかの日本の文化 (P.22-23), 世界のさまざまな文化や宗教 (P.190-191), 2020 東京オリンピック・パラリンピック (P.192-193) など

#### ④巻末での「学習を支援するページ」の充実

巻末には学習のなかで登場する法令をとりあげた「法令集」(P.222-245), 国々の位置などをつかむことができる世界地図 (P.246-247), 現代史年表 (P.248-249) の資料を設けています。また、難しい語句などを取り上げた「用語解説」(P.250-251), GDP・GNIといった類似用語の違いについてまとめる「類似用語集」(P.252-253) を設け、生徒の学習を支援しています。

#### ⑤ ICT を活用した学習の支援

教科書内容の理解を助ける動画教材やワークシートなどのコンテンツを弊社 web ページで公開しています。該当ページでは、紙面上にデジタルマーク  を掲載しています (P.11, 30 など)。第5編では、調査・考察した内容の発表手段としてプレゼンテーションソフトの利用を取り扱っています (P.220)。

▶動画教材「自動車の自動運転の実験」



## 特色 4 学習指導要領への対応など

### ①学習指導要領の改訂への対応

学習指導要領の改訂に伴って「学習指導要領解説」などで変更のあった、「人工知能の急速な進化」(P.10 など)、「18歳選挙権」(P.85 など)、「労働におけるトラブルへの対応」(P.146)、「SDGs」(P. 2-3 など)などの**新しい項目**について、わかりやすい図版と平易な文章での記述を設けました。



▲P.10 AIを活用した無人店舗



▲P.146 この労働トラブル、違法?合法?

### ②領土に関する記述

日本の領域をめぐる問題についての記述を充実させ、日本固有の領土である北方領土や竹島に関し未解決の問題が残されていること、日本固有の領土である尖閣諸島に解決すべき領有権の問題は存在していないことなどを明確に記述しています (P.182-183)。

また、公民+a (P.184-185) では北方領土、竹島、尖閣諸島を取り巻く情勢についてさらに詳細な記述を設けるとともに、他国において平和的に領土問題が解決された例を示しています。

### ③「特別の教科 道徳」と関係する教材の採用

教科書全体を通して、**道徳教育の目標**に基づき、道徳科と関連する、社会科ならではの教材を多数採用し、公共の精神をもつてよりよい社会生活の実現に努められるように配慮しました。



▲P.66 公共の福祉



▲P.116-117 まちづくりに参加しよう



▲P.13 イスラム文化

## 本教科書の特色表

基本事項	準拠性	教育基本法の遵守	・教育基本法第2条の「教育の目標」を達成するため、同条第1項から第5項に示されるような人格の育成をめざした教科書としました。
		学習指導要領の遵守	・学習指導要領の社会科の目標、各分野の目標・内容・内容の取扱いをふまえた適切な教材を選択した単元構成としました。
	公正性	・教材の選定、記述にあたっては、一面的、断定的な見解に偏っていないか、広く受容されているかを十分に吟味、検証しました。	
	正確性	・検定基準に照らして正確な内容、表記・表現であることを検証し、最新の資料を選択しました。	
内容・系統性	発達の段階への配慮 (小・中・高連携)	・生徒の発達段階を考慮した内容とし、小学校と地理・歴史との学習の振り返りによる分野間連携、さらには高校「公共」との連携等を意識した学習内容を配慮しました。	
	配列・分量	・配列は、第1編「私たちと現代社会」、第2編「私たちの生活と政治」、第3編「私たちの生活と経済」、第4編「私たちと国際社会」、第5編「私たちの課題」の5編で構成し、90時間の授業時数で完結できるよう各編の内容を吟味しました。 ・教科書の中心となる本文ページは、見開き2ページを1授業時間と想定し、①導入資料→②「学習課題」→③「見方・考え方」→④「アクティビティ」・「深めよう」→⑤「確認」を基本構造とし、この流れを繰り返し学習することによって、基礎・基本の確かな定着と思考力、判断力、表現力を育成することができるよう構成しました。	
	主体的・対話的で深い学びの実現	・編(章)を通して、見方・考え方を働かせることができるように、具体的な問いや活動事例を提示した「アクティビティ」を教科書の各所に配置しました。編(章)末には既習の学習内容を生かして社会の課題を考察・構想する「チャレンジ公民」を設けています。 ・4人の生徒と2人の先生が登場し、様々な場面での疑問や感想、提案等の発言を通して、生徒が自らと同じ目線で感じたり、疑問をもったりできるように工夫しました。	

内容・系統性	社会に開かれた教育課程・カリキュラムマネジメントの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>「法教育」「主権者教育」「消費者教育」「キャリア教育」など社会とのつながりや、道徳科との関連について関心・意欲をもって学習できるように工夫しています。</li> <li>学校毎の生徒の姿や地域の実情に合わせ選択・活用できるように、各種の教材を設けています。</li> </ul>
	重点課題	
	現代的・社会的課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重の精神と生命の尊重を基本に、人権・福祉や「情報モラル」、防災・減災に関わる内容など現代的・社会的課題への対応を重視した教材を用意しました。</li> </ul>
	伝統文化の尊重と国際理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統と文化を理解し、我が国や郷土を愛する心情を育むとともに、多文化共生社会に向けて、国際社会の平和と発展に寄与する態度が養えるよう配慮しました。</li> <li>「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」及び 2025 年開催の「大阪・関西万博」を取り上げることで、国際理解・親善への生徒の興味・関心を促すようにしています。</li> </ul>
	社会の持続可能な発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境、貧困、平等、経済や社会の発展を調和の下に進めていくことが必要であることを理解し、探究することができるように、学習内容に応じて取り扱いました。</li> </ul>
その他	家庭学習への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習や復習にも使えるように、本文ページでは「学習課題」「確認」を設けています。また、編末の「学習の整理と活用」でも復習に適した問題を設けています。</li> </ul>
	地域・社会への関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>「防災・減災」は、情報発信や地方自治の観点から「自助・共助・公助」を具体化した内容です。</li> <li>18 歳選挙権に向けて政治への興味・関心が高まるよう、本文やコーナーに加えて特設ページ「明日に向かって」などで社会参画、主権者教育の充実を図りました。</li> </ul>
	デジタル教材の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を深めるデジタル教材を弊社 Web ページにコンテンツとして用意しました。</li> </ul>
	特別支援教育・ユニバーサルデザインへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字はユニバーサルデザインに配慮したフォント、ふりがなも判読しやすいゴシック体を使用しました。グラフ・地図等の図版は、CUD に配慮した配色や処理を施しています。</li> </ul>
	判型	<ul style="list-style-type: none"> <li>AB 判を採用し、写真等の図版を大きくして、生徒の興味・関心をひきやすくし、広くなる左右のスペースにグラフや各種資料を掲載して本文内容の補完の充実を図りました。</li> </ul>
	印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷は植物油インキを使用し、本文用紙も再生紙を使用して環境に配慮しました。</li> <li>十分な強度をもち、軽くて裏写りが少ない特徴はそのままに、前回（平成 28 年度版）の教科書と比較して約 5 %軽い用紙を使用して、教科書の軽量化を図りました。</li> <li>製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、開きやすくしました。</li> </ul>

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
これからの社会をどんな社会にしたい？	A～D	P. <b>2</b> ～ <b>3</b>	1
第1編 私たちと現代社会	A	P.6～33	11
1 私たちが生きる現代社会の特色	A (1)	P.8～17	(4)
2 現代社会の文化と私たち	A (1)	P.18～23	(3)
3 現代社会をとらえる見方・考え方	A (2)	P.24～31	(4)
第2編 私たちの生活と政治	C	P.34～121	34
第1章 個人の尊重と日本国憲法	C (1)	P.36～77	(17)
1 法に基づく政治と日本国憲法	C (1)	P.36～43	(4)
2 日本国憲法と基本的人権	C (1)	P.44～69	(10)
3 日本の平和主義 ※1 チャレンジ公民を含む	C (1)	P.70～75	(3)
第2章 国民主権と日本の政治	C (2)	P.78～121	(17)
1 民主政治と政治参加	C (2)	P.78～87	(4)
2 国の政治のしくみ	C (2)	P.86～107	(8)
3 くらしを支える地方自治 ※1 チャレンジ公民を含む	C (2)	P.108～119	(5)
第3編 私たちの生活と経済	B	P.122～175	23
1 経済のしくみと消費生活	B (1) (2)	P.124～135	(6)
2 生産の場としての企業	B (1)	P.136～153	(8)
3 金融のしくみとお金の大切さ	B (1)	P.154～159	(3)
4 財政と国民の福祉 ※1 チャレンジ公民を含む	B (2)	P.160～173	(6)
第4編 私たちと国際社会	D	P.176～211	14
1 国家と国際社会	D (1)	P.178～193	(6)
2 国際社会の課題と私たちの取り組み ※1 チャレンジ公民を含む	D (1)	P.194～209	(8)
第5編 私たちの課題 —持続可能な社会をめざして—	D (2)	P.212～220	7
		合計	90

※1 2編1章・2章、3編、4編末の「チャレンジ公民」は、1時間配当です。（※2 予備時間：10 時間）

※2 予備時間は、学校や生徒の実態に即して弾力的に扱っていただくための時間です。